

Kaikoukai  
Rehabilitation  
Hospital

# 『偕行会リハビリテーション NEWS』

vol. 57



【発行】

偕行会リハビリテーション病院

医療相談課

〒490-1405 弥富市神戸5丁目20番地

TEL 0567-52-3883 FAX 0567-52-3885

## ～その人らしい人生を送ることができるために～

今冬は暖冬の予報どおり、病院周りに雪が積もることもなくすでに一日一日暖かくなってきているのを感じる今日この頃です。

巷でのインフルエンザの大流行があり、愛知県は一時日本で一番の定点報告数となっていました。幸い当院では入院患者様の発症は 1 名にとどまり、リハビリテーション治療に支障を来すことなく過ごせています。体調不良などにより十分なリハビリが行なえないと、当院での「治療」が遂行できないことになるため、リハビリを行なうためのコンディション作りも当院での重要な役割になってきます。また、転入院された患者様がリハビリテーションの必要性を十分理解していないことからのリハビリ拒否ということも時々見られます。この場合も私どもの「治療」手段であるリハビリの提供が十分できないことになり、医師をはじめとするスタッフは頭を悩ませることになります。

昨今、「ACP（アドバンス・ケア・プランニング）」ということがさかんに言われています。日本語では「人生会議」と言われることになったようですが、自分の最後を含めた生き方をどうするのか、意思疎通がはっきりとできるときから家族をはじめとする親しい人たちと話し合うことが大切だ、ということです。また、その話し合いは一度きりでなく、時期を変え何度もしましょう、とも言われています。一般的には、救命処置をどうするか、というような内容のことがいわれているようですが、リハビリにも通じることがあります。“一生懸命リハビリやって家に帰る”、“しんどいことは嫌だから車椅子の生活でもかまわない”、“一人はさびしいから施設に入りたい”などいろんな想いがあると思います。その想いもリハビリの進み具合によって変わってくることはよくあることで、“食べることができないなら死んだ方がいい”と言われていた方も、体が少しずつ動くようになってくると“経管栄養でも他に楽しいこともいろいろあるからもうちょっとがんばって生きてみるわ”と変わることがあります。“家族に迷惑かけたくないから施設に”と思っていた方が、“やっぱり寂しい。どんな状態でもいいから家に帰りたい”と想いが変わることもあります。私たちは日ごとにも変わることもある患者様の想いに向き合い、どうするとその人らしい人生を送る手助けができるのかを考えながらリハビリを提供することをこころがけていく必要があると感じています。



リハビリテーション部  
部長 赤坂 佳美



## トピックス

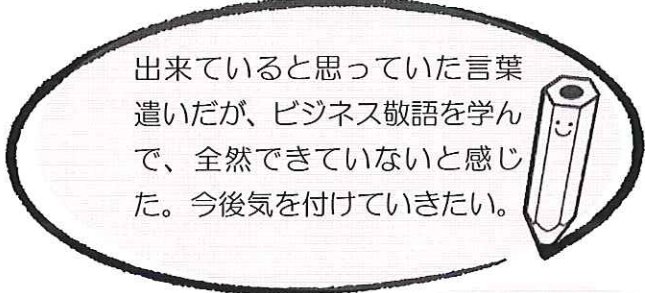
# ビジネスマナー講習



中日新聞グループ 株式会社中日販売研修センター 役員接遇企業研修担当の今井弥生先生他 2 名の方によるビジネスマナー講習を開催しました。挨拶の仕方、電話の対応について、マナーの基本、言葉遣いなどを学ぶことができました。

また、『新聞を読む』ことで地域の行事や出来事を知り、世代を超えて話題を共有することができたり、語彙力を高めることを学びました。

ネットで情報収集をしがちな若いスタッフも多くいるため、マナーを学ぶだけではなく社会、地域、経済など幅広く学ぶことが大切だと感じることができました。



出来ていると思っていた言葉遣いだが、ビジネス敬語を学んで、全然できていないと感じた。今後気を付けていきたい。



電話対応で慌ててしまうことが多いので、声のトーンや話し方など気を付けていこうと思った。

看護の現場で仕事をしてきて「ビジネスマナー」というものを始めて学ぶことができた。今後現場でどう活かしていくかが大切だと思った。

ビジネスマナーを学ぶ機会もなかったので、とても勉強になった。



## JICAタイ「高齢者のための地域包括ケアサービス開発プロジェクト」

1 月下旬に JICA タイ「高齢者のための地域包括ケアサービス開発プロジェクト」の一行の視察がありました。今後、20 年で今の日本並みに高齢化が進むと予測されているタイ、まだ残っているコミュニティの力を用いながら効率的なサービスを供給しようと努力しているとのことでした。この見学が少しでもタイのお役に立てることを祈っています。



# 節分

2月3日、みなさんは願い事をしながら、恵方巻きを食べられましたか？入院患者様には行事食として「助六」「節分ぼうろ」を昼食で提供させていただきました。

今年は日曜日であったため、病棟でのレクリエーションとして「豆まき」をおこないました。豆にみたてた、カラフルなボールを鬼にめがけて『鬼は外～！！』と投げていただきました。

皆様の力により鬼はあっと言う間に逃げていきました。



サンタクロースではないです！  
赤鬼です～



## あいちACPプロジェクト 「共有意思決定支援を学ぶ研修会」に参加しました

あいち ACP プロジェクト～共有意思決定支援を学ぶ研修会～に  
当院から看護師 2 名、理学療法士 1 名、医療相談員 2 名が参加しました。  
人生最終段階における医療体制整備事業の取り組みが必要であるという  
ことで県下 10 カ所で研修が行われています。



～参加したスタッフからの感想です～

研修に参加して、私たちはこの活動を普及する役目と本人の意向を伝える代弁者として活動していかななくてはということが分かりました。ご本人様がどのような状況でも意思決定ができ本人・家族が望む支援ができたらいと思います。

海部医療圏の医療機関、介護事業所の様々な職種の方から状況を聞き、意見交換ができ非常に勉強になりました。

これから回復期リハビリテーション病院としてできることを考えていきたいと思えます。

# 回復期リハビリテーション病棟協会 第33回研究大会 in舞浜・千葉

2月21日、22日と千葉県舞浜にある東京ディズニーシー・ホテルミラコスタ他3か所で開催された回復期リハビリテーション病棟協会 第33回研究大会に当院から看護師、理学療法士、作業療法士の9名が参加し、口演・ポスター発表させていただきました。

大会テーマ 「宣言。科学と情熱。」でした。

看護師 若松喜代実

『排便ケアへのチームアプローチ』

看護師 山本 きよ子

『高次脳機能障害患者に対するチームアプローチ  
～リハビリ看護師としての役割～』



理学療法士 北村 夏子

『回復期リハビリテーション病棟における患者・セラピスト間の退院後生活のイメージの違いについて～アンケート調査の結果から～』

理学療法士 森戸裕也

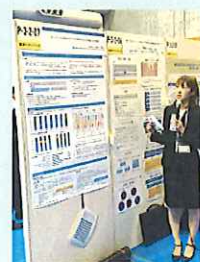
『回復期リハビリテーション病棟セラピストにおける退院後の生活を見据えたマネジメントに必要な視点の実践程度』

理学療法士 藤原 智子

『子育て中のセラピストが直面する就業上の問題の理解度について』

理学療法士 森戸 智子

『ライフイベントが回復期リハビリテーション病棟のセラピストの就業に及ぼす影響』



作業療法士 猪飼 大二郎

『当院回復期病棟入院患者のドライビングシュミレーターと神経心理学検査との関連について』

作業療法士 黒川 里恵

『介護保険サービスを活用せず回復期リハビリテーション病院を退院された方の活動量・FIMの追跡調査』

作業療法士 岸 地洋

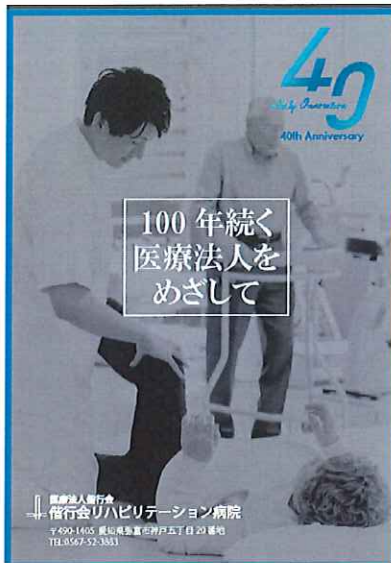
『IVESによる電気刺激を付与する部位の違い及び刺激の有無がリーチ動作の再現性へ与える影響—健常者3症例による予備的検討—』



～参加者の声～

初めて学会での発表をしました。  
貴重な意見をいただいたので、今後の業務に活かしていきたいと思います。



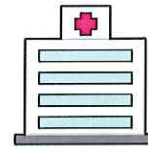


## 偕行会グループは40周年を迎えました

1979年2月1日、偕行会グループの原点「名古屋共立病院」が名古屋市中川区で産声をあげました。

40年でグループ内の施設数は45施設にまで拡大しました。

これからも「100年続く医療法人をめざして」歩みをすすめてまいります。



## 透析センターより



寒い日が続く身体が強張る時期です。少しでも関節を動かし、柔らかい関節造りをして行きましょう。昨年引き続き足の筋力維持の為の運動をお知らせします。

### 〔足上げ運動〕

椅子に座った状態で足を上げ膝を伸ばす運動です。

**4秒かけて膝を伸ばし、4秒かけて戻す**  
**事を片足ずつ10セット目安に行います。**



この運動で下肢の筋力と同時に体幹が鍛えられ、バランス感覚が良くなり転びにくくなります。

少しでも体を動かし、元気な透析ライフを送りましょう！

偕行会リハビリテーション病院 透析センター  
看護師 運動療法担当 :服部

連続シリーズ

ナースリハについて  
～今後の展望～

現在ナースリハでは、覚醒度に関連した背面開放座位や口腔マッサージ、排泄に関連した骨盤底筋群体操、高次脳機能障害患者に対するスケジュール管理、摂食嚥下に関連した機能訓練、ADLの向上や離床時間の確保、転倒予防のための筋力向上、など内容は尽きません。これらのメニューは看護師が主体となりセラピストや医師に相談のもとプランが組まれていきます。右記にある表は、看護師によるアイデアから作成されたものです。注意点や目標を設定することで、介護士も同様にナースリハへの取り組みに参加する事ができており、看護部全体でADL向上に向けて意識した関わりをもつことができます。

病室番号	患者名	開始日	ナースリハメニュー	注意点	目標(月)
213	〇〇	1/2	垂直座位	肩こり	歩行器、歩行練習
		1/6	骨盤底筋群体操		
214	〇〇	1/1	骨盤底筋群体操(1-2期)		
		1/6	骨盤底筋群体操(2-)		歩行器使用へ
215	〇〇	1/1	骨盤底筋群体操(1期)		歩行器使用へ
		1/6	骨盤底筋群体操(2期)		歩行器使用
216	〇〇				
217	〇〇	1/1	骨盤底筋群体操(1期)		歩行器使用へ
		1/6	骨盤底筋群体操(2期)		歩行器使用
218	〇〇	1/1	骨盤底筋群体操(1期)		歩行器使用へ
		1/6	骨盤底筋群体操(2期)		歩行器使用

ナースリハの未来図

★ナースリハを可視化★

- \*表を活用し見るべきポイントや記録の充実、他職種を巻き込んだ関わりへと拡大
- \*病棟単位で行っているため、他病棟への拡大
- \*FIM とのつながりや点数アップを意識した目標設定



認定看護師からのお知らせ

今年度、新たに認知症看護認定看護師が当院に誕生しました。認定看護師としての役割である実践、指導、相談が全うできるよう各専門分野を活かしながら活動していきます。今後認定看護師の活動日を設け、病棟、透析棟へのラウンドを開始しようと考えています。詳細が決まりましたらお知らせしていきますのでよろしくお願いいたします。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師  
2階病棟クリニカルチーフ  
今井 志保



## 栄養士がおすすめする今日のレシピ!

### いちごのロールケーキ

#### 材料

小麦粉	65g
さとう	65g
卵	4個
オリーブオイル	50g
生クリーム	200g
さとう	30~50g (お好みの量)
いちご	10個



- ① 小麦粉とさとうをボールに入れ裏ごしする
- ② 卵を卵黄と卵白に分ける
- ③ 卵黄をあわ立てる (白っぽくなるまで)
- ④ 卵白を7分程度ハンドミキサーであわ立てる (角が立つ程度)
- ⑤ ②と③を軽くあわせ、オリーブオイルと小麦粉、さとうも入れる
- ⑥ 泡を潰さない程度に全て混ぜ合わせる
- ⑦ クッキングペーパーをしいた天板に生地をそっと流す
- ⑧ オーブンで180℃12分焼く (つまようじをさして、何も生地がつかなければOK)
- ⑨ 生クリームをあわ立て、いちごをいれ、冷ました生地に生クリームといちごをのせて巻く

☆今回は 春の象徴でもある苺を使った簡単ロールケーキのご紹介でした☆



食事療法を行っている場合は  
医師や管理栄養士などに相談しましょう

3月の行事にはひな祭りがあります。雛壇は、最上段を一段目として、最下段を七段目としています。

- ・一段目…親王様 (男雛・女雛)
- ・二段目…三人官女 (さんになかんじょ)
- ・三段目…五人囃子 (ごにんばやし)
- ・四段目…随臣 (ずいじん)
- ・五段目…仕丁 (しちょう)
- ・六段目…嫁入道具揃 (よめいりどうぐそろい)
- ・七段目…御輿入れ道具 (おこしいれどうぐ)

雛人形には、災いを払ってくれる厄除けの意味があったり、幸せな結婚ができるようにと願いをこめられていました。

## 在宅支援リハビリテーション課の活動報告

飛島村のふれあいの郷内にある「敬老センター」の運動実践室での活動について

ふれあいの郷は、高齢者の方に健康で生きがいを持って豊かに過ごしていただくための施設として運営しています。その中の一つとして運動実践室があり、各種運動機器を取り揃え、保健師・看護師・健康運動指導士・管理栄養士・歯科衛生士等が連携を図り村民の健康保持・増進・介護予防を目的に活動を行っています。

その中で、当院のリハスタッフが、様々な視点から運動についてアドバイスをさせて頂いています。地域の介護予防活動への一助となればと関係職種と連携を図っています。

あと 10 回ですね！

力がつきましたね



\*利用者は飛島村在住者の60歳以上の方のみとなっております。

### 【私たちの基本理念】

- 1、患者のための医療を目指します。
- 2、他の医療機関と連携して、地域医療の発展を目指します。
- 3、教育・研究を重視し、職員の自己研鑽に努めます。

### 医療法人偕行会

### 偕行会リハビリテーション病院

〒490-1405 弥富市神戸5丁目20番地

TEL 0567-52-3883 (代表)

FAX 0567-52-3885

URL <http://www.riha-kaikou.com/>

F B <http://www.facebook.com/riha.kaikou>

